

事業所名		アイリール児童発達支援・放課後等デイサービス【重症心身障害・医療的ケア】			公表日 2025年2月21日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4	1	利用者の人数や状態に合わせて必要なもの、不必要なものを出し入れしながらスペースの確保に工夫している。	現時点では児童発達支援（午前）に関しては利用定員に余裕があり、十分なスペースが確保できている。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	1	必要に応じて非常勤の看護職員が支援に加わるよう調整している。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	2	3	利用者の特性等に合わせて必要なもの、不必要なものを出し入れして工夫している。	玄関・ドア部分の段差などハード面でのバリアフリー化はなされていない。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4	1		第3者が見ても整った環境になっているかを考えながら業務することが大切である。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	0	入浴や機能訓練等に応じて個別の部屋を活用している。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	4	1		開設初年度のため日々の業務で精一杯と感じる場合がある。労務環境や業務改善に関して話し合う時間を意識的に確保していく必要がある。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	1		初年度のため今回の保護者向け評価表をもとに、次年度の業務つなげていく予定である。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0	朝の打ち合わせや研修で意見交換し、改善に向けて努力している。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	5		現時点では外部評価は行っていない。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5	0		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5	0		常にスタッフ全員で内容を把握しておくよう努める。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5	0		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5	0		
	14	児童発達支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5	0		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	0	5		個々の日々の様子から随時アセスメントを行っているが、適応行動について標準化されたアセスメントツールを使用しているわけではない。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5	0		「地域支援・地域連携」について今後より積極的に取り組んでいく必要がある。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	0		保育士以外のスタッフも主体的に計画・立案できるよう取り組む。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	0		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	4	1		適宜計画の見直しを行い、具体的な支援につなげていく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	0		
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	1	業務の都合上、その日のうちに職員全員での振り返りが難しいが、翌日の朝の打ち合わせ時に行うようにしている。	毎回できていないことがある。	
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4	1		職員全員が意識して振り返りと改善につなげていく。	
23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	0			
24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4	1		今後より積極的に関係機関との連携・関係性の構築に力をいれていく必要がある。	
25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	1			

関係機関や保護者との連携	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	0	移行に向けて、保育所での生活リズムを身につけられるように療育内容を工夫している。移行の際には保育所と連携し引継ぎも行った。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	0	5	※現時点で対象児なし	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会なども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	0	5		次年度以降、資質向上のために機会を設けていく。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	0	5		近隣の保育所・幼稚園の合併や工事を行っていたこともあり交流の機会をつくれなかったが、次年度からの実施を計画する。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5	0		
保護者への説明等	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	0	5		
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	0		
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5	0		
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5	0		
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5	0	面談を開始したところである。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	1	4	利用者が少なかったこともあり、保護者会の開催はできなかったが、夏祭りでは家族やきょうだいにも参加してもらい、交流する機会は作ることができた。	機会を増やす必要がある。今後保護者の意向やニーズに合わせて、保護者同士の茶話会などを次年度の実施を計画する。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5	0		
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5	0		
非常時等の対応	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5	0		写真を撮る際には個人情報が入らないよう引き続きも留意していく。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5	0		
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	0	5		
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	2	3		今後有事の際に落ち着いて対応ができるようにアップデートを行いながら、家族に周知していく。
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	0		より実態に即したものに随時アップデートしていく。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5	0		
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	0	契約時の聞き取りや、主治医指示書にて確認すると共に、食べ物を提供する際(クッキング等)には、その都度保護者に確認している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	0		
50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	0			
51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	0			
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5	0		どのようなことが虐待につながるのか意識し、風通しのよい、コミュニケーションのとりやすい職場環境を維持していく。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5	0		現在身体拘束を必要とする利用児はいないが、何が身体拘束・行動制限・不適切なケアにあたるか常に職員間で共通認識していく。	

○事業所名	アイリー児童発達支援・放課後等デイサービス【重症心身障害・医療的ケア】		
○保護者評価実施期間	2025年1月10日		2025年2月12日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 2
○従業者評価実施期間	2025年1月10日		2025年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年2月13日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	1日定員5人の少人数制でアットホームな雰囲気のなか、スタッフとの距離も近くひとりひとりに丁寧に時間をかけて療育を実施できている。	同じ集団活動も利用児の発達状況や特性に応じてねらいを明確に、保育所等の移行を想定した生活リズムの確立等を目指した支援を提供している。プログラムは集団活動と個別の機能訓練を組み合わせて行うとともに、個々の障害や医療的ケア、生活リズムなどに配慮し利用時間設定なども保護者と相談のうえ臨機応変に対応している。日々の活動の様子について、写真・動画も交えて保護者とコミュニケーションを図っている。	児童発達支援センターとの連携によるスーパーバイズや、他事業所での様子について理解するなど、他機関との連携をより深めていく。
2	併設する訪問看護ステーションとも随時連携を図り、様々な切れ目ないケアと療育を行うことができる。	自社の訪問看護ステーションと密に連携を図りながら、児童発達支援・放課後等デイサービス利用前の利用児の体調やケア・処置の内容、ご家族の心配ごと等について申し送りを受けるなど法人全体で支援ができるよう努めている。医療的ケアや処置など看護職員が複数で対応し、訪問看護からの応援体制の整えている。	今後、他の訪問看護ステーションとの連携や見学などを積極的に行うことで、療育活動の中でより安全・安心に様々な医療的ケアに対応できる環境を整備していく。
3	こどもの日常生活、家族を支える観点から希望者には入浴支援を実施している。	自宅での入浴方法も参考に、個々の発達発育状況、姿勢、医療機器の使用状況等に応じた入浴方法を検討している。また入浴前後には吸引、洗腸、導尿、消毒・軟膏処置、全身の皮膚状態の観察など医療・健康面にも十分留意しながら実施している。	利用児の成長にあわせて入浴支援が対応できるよう、浴室や住宅環境の整備・改築を進めていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士の交流の機会や家族を招いてのイベントが少ない。	開設初年度で利用者の数が少なかったことで、十分な保護者同士の交流の機会を作れなかったと考える。	今後保護者の意向やニーズにも確認しながら、来年度計画案に茶話会などを取り入れていく。
2	放課後児童クラブや児童館、保育所等との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がとれていない。	開設当初、十分な年間活動計画の立案や準備に十分な時間をかけることができず、加えて近隣の園の事情(建替え)等があり実現できなかった。	長期休暇中など長時間利用ができる時期に、近隣の保育所・放課後児童クラブと交流できるよう働きかけていく。
3			

事業所名	アイリー児童発達支援・放課後等デイサービス【重症心身障害・医療的ケア】				公表日	2025年2月21日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4	1	利用者の人数や状態に合わせて必要なもの、不	利用人数や医療機器等の配置場所を考えると十分なスペースの確保が難しいことや、二部屋にわかれると全体把握が難しいこともあるため施設改修を検討中。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	1	必要に応じて非常勤の看護職員が支援に加わるよう調整している。	送迎時や入浴支援中にも十分な職員配置ができるようさらなる工夫が必要。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	2	3	利用者の特性等に合わせて必要なもの、不必要なものを出し入れして工夫している。	玄関・ドア部分の段差などハード面でのバリアフリー化はなされていない。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4	1		第三者が見ても整った環境になっているかを考えながら業務することが大切である。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	0	入浴や機能訓練等に応じて個別の部屋を活用している。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	4	1		開設初年度のため日々の業務で精一杯と感じる場合がある。労務環境や業務改善に関して話し合う時間を意識的に確保していく必要がある。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	1		初年度のため今回の保護者向け評価表をもとに、次年度の業務につなげていく予定である。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0	朝の打ち合わせや研修で意見交換し、改善に向けて努力している。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	5		現時点で外部評価は行っていない。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5	0		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5	0		常にスタッフ全員で内容を把握しておくよう努める。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5	0		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5	0		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5	0		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	0	5		個々の日々の様子から随時アセスメントを行っているが、適応行動について標準化されたアセスメントツールを使用しているわけではない。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5	0		「地域支援・地域連携」について今後より積極的に取り組んでいく必要がある。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	0		保育士以外のスタッフも主体的に計画・立案できるよう取り組む。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	0		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	4	1		適宜計画の見直しを行い、具体的な支援につなげていく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	0		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	1	業務の都合上、その日のうちに職員全員での振り返りが難しいが、翌日の朝の打ち合わせ時に行うようしている。	できていないこともある。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4	1		職員全員が意識して振り返りと改善につなげていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	0		
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	5	0		
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5	0		

関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4	1		今後より積極的に関係機関との連携・関係性の構築に力をいれていく必要がある。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	1		
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5	0	学校送迎時に確認するようにしている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	0	5	※開所してまもないため現時点で対象児がいない。今後取り組んでいく。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	0	5	※開所してまもないため現時点で対象児がいない。今後取り組んでいく。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	0	5		次年度以降、資質向上のために機会を設けていく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	0	5		長期休暇中などに交流の機会がもてるよう計画していく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5	0		管理者以外のスタッフも今後参加できるよう調整が必要。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5	0		
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	0	5		日々こどもの様子等について保護者とのコミュニケーションを図っているが、ペアレントトレーニング等は行っていない。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	0		
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5	0		
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5	0		
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5	0		
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	1	4	利用者が少なかったこともあり、保護者会の開催はできなかったが、夏祭りでは家族やきょうだいにも参加してもらい、交流する機会は作ることができた。	機会を増やす必要がある。今後保護者の意向やニーズに合わせて、保護者同士の茶話会などを次年度の実施を計画する。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5	0		
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5	0		
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5	0		
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5	0		写真を撮る際には個人情報が写らないよう引き続きも留意していく。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	0	5		
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	2	3		今後有事の際に落ち着いて対応できるようにアップデートを行いながら、家族に周知していく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	0		より実態に即したものに随時アップデートしていく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5	0		
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	0	契約時の聞き取りや、主治医指示書にて確認すると共に、食べ物を提供する際（クッキング等）には、その都度保護者に確認している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	0		
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	0		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	0		
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5	0		どのようなことが虐待につながるのか意識し、風通しのよい、コミュニケーションのとりやすい職場環境を維持していく。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5	0		現在身体拘束を必要とする利用児はいませんが、何が身体拘束・行動制限・不適切なケアにあたるか常に職員間で共通認識していく。	

公表

事業所における自己評価総括表 ※放課後等デイサービス

○事業所名	アイリー児童発達支援・放課後等デイサービス		
○保護者評価実施期間	2025年1月10日		～ 2025年2月12日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○従業者評価実施期間	2025年1月10日		～ 2025年1月10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2024年2月13日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	1日定員5人の少人数制でアットホームな雰囲気の中、スタッフとの距離も近くひとりひとりに丁寧に時間をかけて療育を実施できている。	同じ集団活動も利用児の発達状況や特性に応じてねらいを明確に、自己肯定感や自己有用感を高められるよう支援するよう意識している。プログラムは集団活動と個別の機能訓練を組み合わせで行うとともに、個々の障害や医療的ケア、生活リズムなどに配慮し利用時間設定なども保護者と相談のうえ臨機応変に対応している。日々の活動の様子について、写真・動画も交えて保護者とコミュニケーションを図っている。	学校や他事業所での様子など、他機関との連携をより深めていく。
2	併設する訪問看護ステーションとも随時連携を図り、様々な切れ目ないケアと療育を行うことができる。	自社の訪問看護ステーションと密に連携を図りながら、児童発達支援・放課後等デイサービス利用前の利用児の体調やケア・処置の内容、ご家族の心配ごと等について申し送りを受けるなど法人全体で支援ができるよう努めている。医療的ケアや処置など看護職員が複数で対応し、訪問看護からの応援体制の整えている。	今後、他の訪問看護ステーションとの連携や見学などを積極的に行うことで、療育活動の中でより安全・安心に様々な医療的ケアに対応できる環境を整備していく。
3	こどもの日常生活、家族を支える観点から希望者には入浴支援を実施している。	自宅での入浴方法も参考に、個々の発達発達状況、姿勢、医療機器の使用状況等に応じた入浴方法を検討している。また入浴前後には吸引、洗腸、導尿、消毒・軟膏処置、全身の皮膚状態の観察など医療・健康面にも十分留意しながら実施している。	利用児の成長にあわせて入浴支援が対応できるよう、浴室や住宅環境の整備・改築を進めていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士の交流の機会や家族を招いてのイベントが少ない。	開設初年度で利用者の数が少なかったことで、十分な保護者同士の交流の機会を作れなかったと考える。	今後保護者の意向やニーズにも確認しながら、来年度計画案に茶話会などを取り入れていく。
2	放課後児童クラブや児童館、保育所等との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がとれていない。	開設当初、十分な年間活動計画の立案や準備に十分な時間をかけることができず、加えて近隣の園の事情(建替え)等があり実現できなかった。	長期休暇中など長時間利用ができる時期に、近隣の保育所・放課後児童クラブと交流できるよう働きかけていく。
3			